

# Briefing Transcription

|| 2026年3月期 決算説明文字起こし ||

## 富士ユナイトホールディングス株式会社

416A 東証スタンダード市場

[企業情報はこちら >>>](#)

[紹介動画はこちら >>>](#)

2026年6月17日(水)



FISCO Ltd.

<https://www.fisco.co.jp>

## ■ 目次

■ 決算を受けてのフィスコアナリストコメント	01
■ 出演者	02
■ 決算説明	03

## ■ 決算を受けてのフィスコアナリストコメント

- ・上場していた富士興産は、1949年に創業し、戦後の産業需要拡大を背景に燃料からアスファルト・潤滑油・LPGへ領域を拡大、近年は廃油再生やバイオ燃料など循環型ビジネスを強化している。2025年10月に持株会社体制へ移行し、富士ユナイトホールディングス<416A>の子会社となった。
- ・上場後初の決算となる2026年3月期決算は、事前予想を上回る着地となった(経常利益800百万円1,187百万円)。グリーン領域のリサイクル事業、ホームエネルギー事業、インフラ領域のレンタル事業はいずれも好調に推移した。エネルギー領域においては需給が逼迫する中で、安定供給を着実に実現したこと、市況に応じた適正販売を行ったこと、および在庫評価益が寄与した。
- ・決算発表と同時に中期経営計画を発表している。2029年3月期を最終年度とする目標数値は、営業利益で13億円、ROE8%以上、配当性向60%以上となる。PER15倍の評価を受けると、時価総額で117億円程度が試算される(現在74億円)。現状でも高い配当利回りも5.5%も、6%台まで上昇することになる。PBRも0.76倍と割安感がある。

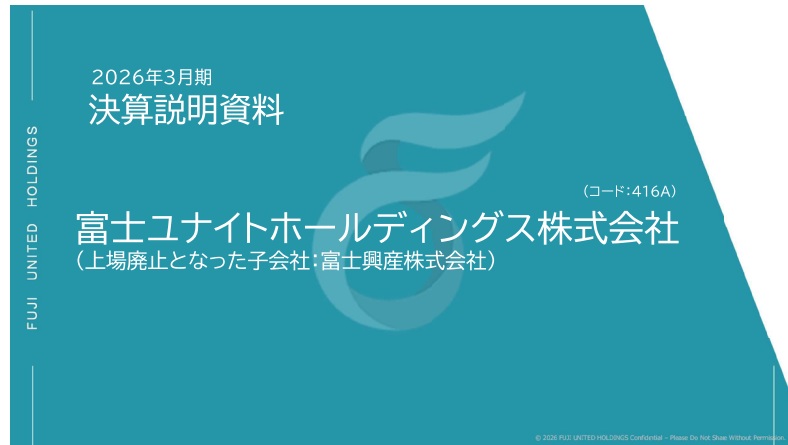
富士ユナイトホールディングス株式会社 | 2026年6月17日(水)  
416A 東証スタンダード市場

## ■ 出演者

富士ユナイトホールディングス株式会社  
代表取締役社長

川崎 靖弘様

## 決算説明



富士ユナイテッドホールディングス 代表取締役社長 川崎様

皆様、こんにちは。富士ユナイテッドホールディングス株式会社代表取締役社長の川崎でございます。平素は格別のご愛顧を賜り、心より感謝申し上げます。本日は、2026年3月期の決算についてご説明いたします。どうぞよろしくお願い申し上げます。

2025年度 主要トピックス

組織再編	<p><b>持株会社体制への移行/富士ユナイテッドホールディングス設立</b></p> <p>富士ユナイテッドホールディングスを設立し、持株会社体制へ移行 グループ経営の意思決定を迅速化し、事業成長を加速 グリーン領域・エネルギー領域・インフラ領域の3領域へ事業セグメントを再編</p>
グループ強化	<p><b>加島の富士ユナイテッドグループへの加入</b></p> <p>京滋地区で石油事業を営む加島をグループに迎え入れ、グループ既存事業とのシナジー創出により、グリーン領域事業の拡大に注力</p>
バイオ燃料 製造体制強化	<p><b>姫路バイオ燃料製造所の稼働開始(2025年11月竣工)</b></p> <p>姫路製造所を稼働開始し、自社製造所4か所体制により製造供給機能を強化</p>

© 2026 FUJITSU UNITED HOLDINGS Co., Ltd. All Rights Reserved. 1

まずはじめに、2025年度の主要トピックスについてご説明いたします。2025年度は、大きく3つの取り組みを実行いたしました。

1つ目は、組織再編です。富士ユナイテッドホールディングスを設立し、持株会社体制によるグループ経営体制を構築いたしました。これにより、グループ経営の意思決定を迅速化し、事業成長をさらに加速させてまいります。また、これを機に、事業セグメントをグリーン領域、エネルギー領域、インフラ領域の3領域へ再編いたしました。

決算説明

2つ目は、グループ強化です。2025年10月に、京滋地区で石油事業を営む加島をグループへ迎え入れました。加島が持つ石油事業の安定収益基盤と、リサイクル事業を中心としたグリーン領域を取り込むことで、既存事業とのシナジー創出を図ってまいります。

3つ目は、バイオ燃料製造体制の強化です。詳細につきましては、次のスライドでご説明いたします。

**姫路バイオ燃料製造所の稼働開始(2025年11月竣工) / 供給体制の強化**

バイオディーゼル燃料は、廃食用油由来の環境対応エネルギーとして需要拡大が見込まれており、本製造所を供給の中核拠点として整備。年間約2万KLの供給体制を確立し、関西～中・四国エリアの需要拡大に対応可能となりました。

< 姫路製造所 >



< 多様なニーズに対応可能な供給体制を実現 >

- ・混和比率を柔軟に調整可能な高性能ブレンダー
- ・製品タンクを介さずに直接出荷可能な技術
- ・多様な車両に対応可能な入出荷設備
- ・AIカメラによる安全管理システム

バイオ燃料製造/供給体制



環境対応エネルギーの供給体制強化を通じ、成長領域における事業拡大を推進

© 2026 FISCO UNITED HOLDINGS Confidential - Please Do Not Share Without Permission.

バイオディーゼル燃料は、廃食用油由来の環境対応エネルギーとして、需要拡大が期待されています。当社はこれを事業機会と捉え、この度、2025年11月、姫路に大型のバイオ燃料製造所を建設し、稼働を開始いたしました。

これにより、関西から中四国エリアにおける需要拡大への対応が可能となりました。また、全国では年間約2万キロリットルの製造体制を確立することができました。

姫路製造所は、バイオ燃料製造設備として日本初の技術を4つ導入しております。1つ目は、混和比率を柔軟に調整可能な高性能ブレンダー、2つ目は、製品タンクを介さずに直接出荷可能な技術、3つ目は、多様な車両に対応可能な入出荷設備、最後に4つ目は、AIカメラによる安全管理システムです。

当社は、環境対応エネルギーの供給体制強化を通じて、成長領域における事業拡大を推進してまいります。

## 01 長期ビジョンと次なる成長に向けた戦略

続きまして、富士ユナイテッドホールディングスの長期ビジョンと、次なる成長ステージに向けた戦略についてご説明いたします。

決算説明

持続可能な成長戦略 ~長期ビジョン~

VISION 環境のグリーン化対応とエネルギーの安定供給を通じて  
社会に貢献するグループであり続ける

VISION

STRATEGY

- ①リサイクル事業の拡大
- ②環境対応エネルギーの事業化
- ③持株会社体制による効率的なグループ経営

STRATEGY

3

まず、長期ビジョンです。当社グループは、持続可能な成長を目指し、「環境のグリーン化対応とエネルギーの安定供給を通じて社会に貢献するグループであり続ける」をグループ長期ビジョンとして掲げております。この長期ビジョンの実現に向け、1つ目にリサイクル事業の拡大、2つ目に環境対応エネルギーの事業化、3つ目に持株会社体制による効率的なグループ経営を、戦略の柱として事業活動を行っております。

成長加速フェーズ ~次なる成長ステージへ~

「グリーン」「エネルギー」「インフラ」の3つの領域に再編し、  
富士ユナイテッドグループは更なる成長ステージへの挑戦を開始しました。

各事業領域へ経営資源を最適に配分することによって、  
持続的な成長を加速させ、グループ価値の最大化を目指します。

領域	環境開発工業	富士ホームエナジー	富士興産	加島	富士レンタル
グリーン	○ リサイクル	○ ホームエネルギー	○ 再生可能エネルギー	○ リサイクル	
エネルギー			○ 石油	○ 石油	
インフラ					○ レンタル

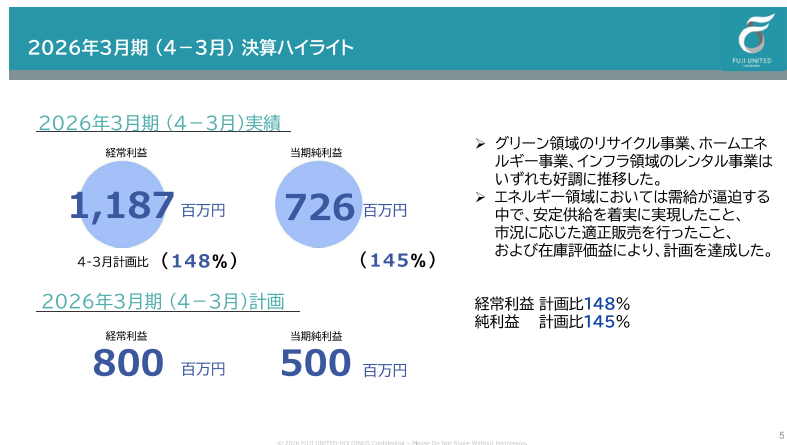
© 2026 FUJII UNITED HOLDINGS Confidential - Please Do Not Share Without Permission.

4

次に、次なる成長ステージに向けた戦略です。持株会社体制への移行を機に、経営資源を最適に配分すること、およびステークホルダーの皆様からご理解を得やすい体制とすることを目的に、グループの事業セグメントを「グリーン」「エネルギー」「インフラ」という3つの領域に再編いたしました。これにより、持続的な成長を加速させ、企業価値向上を目指してまいります。

## 02 2026年3月期 決算内容

それでは、2026年3月期の決算内容についてご説明いたします。



2026年3月期の決算状況は、ご覧の通りです。グリーン領域のリサイクル事業、ホームエネルギー事業、インフラ領域のレンタル事業、およびエネルギー領域が好調に推移し、経常利益は計画比148%、純利益は計画比145%となりました。

富士ユナイテッドホールディングス株式会社 | 2026年6月17日(水)  
416A 東証スタンダード市場

決算説明

2026年3月期(4-3月) 決算概要 ~3領域 5事業~					
(単位:百万円)	2026年3月期 4-3月決算実績	2026年3月期 4-3月決算計画	達成率	2025年3月期 4-3月決算実績	前年対比
売上高	75,057	82,000	92%	68,344	110%
営業利益	1,184	800	148%	800	148%
グリーン領域 リサイクル ホームエネルギー 再生可能エネルギー	358	300	119%	-	-
エネルギー領域 石油	684	460	149%	-	-
インフラ領域 レンタル	329	250	132%	-	-
全社共通費用 (M&A関連費用を含む)	▲188	▲210	-	-	-
経常利益	1,187	800	148%	822	144%
純利益	726	500	145%	717	101%

各領域の決算概要はご覧の通りですが、詳細につきましては、以降のスライドでご説明いたします。なお、グリーン領域は、リサイクル事業、ホームエネルギー事業、再生可能エネルギー事業の3つの事業で構成されております。エネルギー領域は、燃料油、潤滑油、アスファルト、アドブルー等の石油事業で構成されております。インフラ領域は、建機レンタル事業で構成されております。

### グリーン領域 業績 (リサイクル事業)

営業利益 **358** 百万円  
(計画比 +59百万円)

リサイクル事業 **265** 百万円  
(計画比 +55百万円)

- 資源リサイクル事業は、素材売却単価の上昇や処理単価の高い案件の寄与により、利益は計画を上回った
- オイルリサイクル事業は市況に応じた適正販売および回収数量確保により、売上・利益ともに計画を上回り、安定的な収益を確保した
- 環境リサイクル事業は工事の時期ずれにより、売上・利益共に計画を下回った

リサイクル事業 四半期別営業利益推移

© 2026 FUJII UNITED HOLDINGS Confidential - Please Do Not Share Without Permission.

それでは、各領域の詳細についてご説明いたします。  
グリーン領域のリサイクル事業です。資源リサイクル事業は、素材売却単価の上昇や、処理単価の高い案件の寄与により、利益は計画を上回りました。また、オイルリサイクル事業は、市況に応じた適正販売および回収数量の確保により、売上・利益ともに計画を上回り、安定的な収益を確保いたしました。一方、環境リサイクル事業は、工事の時期ずれにより、売上・利益ともに計画を下回りました。

富士ユナイテッドホールディングス株式会社 | 2026年6月17日(水)  
416A 東証スタンダード市場

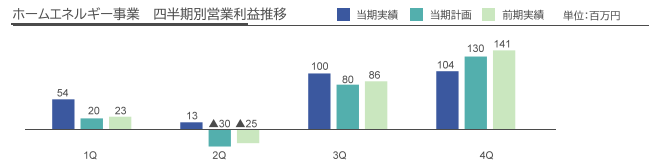
決算説明

グリーン領域 業績 (ホームエネルギー事業)

営業利益 **358** 百万円  
(計画比 +59百万円)

ホームエネルギー事業 **271** 百万円  
(計画比 +71百万円)

- LPG、灯油販売は、気温要因による需要増加により粗利を確保し、利益は計画を上回った
- 液石法改正を事業機会と捉え、「安全・安心・安定」の供給体制の維持・強化により、利益は計画を上回った。



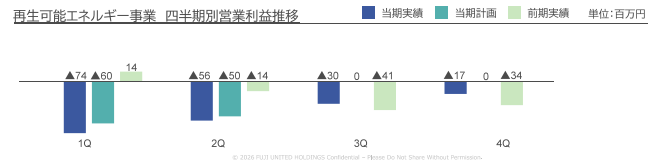
グリーン領域のホームエネルギー事業です。LPG、灯油販売は、気温要因による需要増加により粗利を確保し、利益は計画を上回りました。また、液石法改正を事業機会と捉え、「安全・安心・安定」の供給体制の維持・強化により、利益は計画を上回りました。

グリーン領域 業績 (再生可能エネルギー事業・バイオ燃料・再生重油・メガソーラー)

営業利益 **358** 百万円  
(計画比 +59百万円)

再生可能エネルギー事業 **▲177** 百万円  
(計画比 ▲67百万円)

- バイオ燃料は、設備コスト負担の増加により、利益は計画未達となったが、建設現場向けを中心に販売数量は増加した。
- メガソーラーは、1Qにおいて出力抑制や修繕の影響や積雪による発電量低下の影響があったものの、年間を通して利益は計画を上回った。



グリーン領域の再生可能エネルギー事業です。バイオ燃料は、設備コスト負担の増加により利益計画は未達となりましたが、建設現場向けを中心に販売数量は増加しております。メガソーラーは、第1四半期において、出力抑制や発電設備の一部故障による修繕の影響や、積雪による発電量低下の影響があったものの、年間を通して利益は計画を上回りました。

富士ユナイテッドホールディングス株式会社 | 2026年6月17日(水)  
416A 東証スタンダード市場

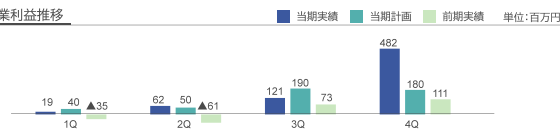
決算説明

エネルギー領域 業績 (石油事業: 燃料油・潤滑油・アスファルト・アドブルー)

営業利益 **684** 百万円  
(計画比 +224百万円)

- エネルギー領域においては需給が逼迫する中で、安定供給を着実に実現したこと、市況に応じた適正販売を行ったこと、および在庫評価益により、利益は計画を上回った。
- アドブルーは、需給逼迫への懸念を背景とした一時的な需要増加により、受注が増加した。加えて、カーショップ、ホームセンターなどの小売店向けの販売を強化したことにより、利益は計画を上回った。

四半期別営業利益推移



© 2026 FUJI UNITED HOLDINGS Confidential - Please Do Not Share Without Permission.

10

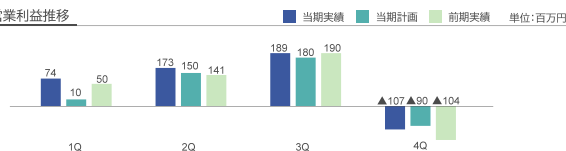
エネルギー領域です。エネルギー領域においては、需給が逼迫する中で安定供給を着実に実現したこと、市況に応じた適正販売を行ったこと、および在庫評価益により、利益は計画を上回りました。アドブルーにつきましては、需給逼迫への懸念を背景とした一時的な需要増加により、受注が増加いたしました。加えて、カーショップやホームセンターなど小売店向け販売の強化を進めた結果、利益は計画を上回りました。

インフラ領域 業績 (レンタル事業)

営業利益 **329** 百万円  
(計画比 +79百万円)

- 売上・利益ともに予算を上回って推移しており、収益性を重視した運営により安定的に収益を確保
- 新規案件の取り込みと不採算要素の整理により収益体質が改善

四半期別営業利益推移



© 2026 FUJI UNITED HOLDINGS Confidential - Please Do Not Share Without Permission.

11

インフラ領域です。建機レンタルは、売上、利益ともに予算を上回って推移し、収益性を重視した運営により、安定的な収益を確保しました。また、新規案件の取り込みと不採算要素の整理により、収益体質が改善いたしました。

決算説明

株主配当 

	単位	中間	期末	合計
純利益	(百万円)	286	726	726
配当総額	(百万円)	204	204	409
配当単価	(円/株)	31	31	62
対象株数	(千株)	6,588	6,599	-
自己株式取得	(百万円)	-	-	-
総還元額	(百万円)	-	-	409
総還元性向		-	-	56.3%

© 2026 FUJI UNITED HOLDINGS Confidential - Please Do Not Share Without Permission.

12

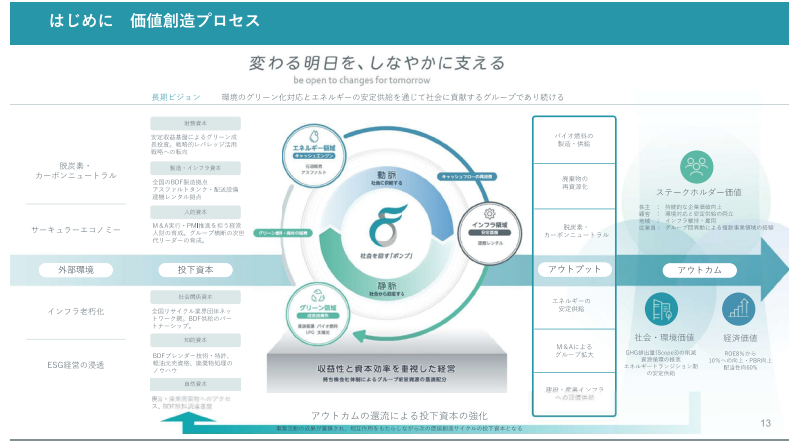
次に、株主の皆様への還元についてご説明いたします。期末配当につきましては、中間配当と同じく1株当たり31円を予定しております。当社は、今後も高水準の配当方針を継続しつつ、将来の成長に向けた戦略的な投資を着実に進めてまいります。



© 2026 FUJI UNITED HOLDINGS Confidential - Please Do Not Share Without Permission.

続きまして、5月15日に開示いたしました中期経営計画のサマリーについてご説明いたします。

決算説明



まず最初に、当社グループの価値創造プロセスについてです。

当社グループは、「環境のグリーン化対応とエネルギーの安定供給を通じて社会に貢献する」という長期ビジョンのもと、事業活動を通じた価値創造の好循環の構築を目指しております。当社のビジネスモデルは、社会にエネルギーやインフラを供給する「動脈」と、廃棄物や資源を回収・再資源化する「静脈」により構成されております。これらを有機的に結びつけることで、資源循環型のエネルギーインフラ企業として、独自のポジション確立を進めております。

特に、エネルギー領域およびインフラ領域は、既存インフラを活用した安定的なキャッシュフローを創出する収益基盤として機能しております。そこで生み出した資本を、成長領域であるグリーン領域へ再投資することで、成長と収益の好循環を実現してまいります。グリーン領域では、リサイクル事業を中心に、M&Aを活用したネットワークの構築を推進するとともに、バイオ燃料需要の拡大を着実に取り込むことで、さらなる成長を目指してまいります。エネルギー領域では、安定供給体制の強化による収益基盤の拡充を進め、インフラ領域では、公共工事を中心としたレンタル需要の取り込みや新たな顧客開拓を進めることで、安定収益の確保に努めてまいります。この資本循環型のビジネスモデルこそが、当社グループの持続的成長を支える中核であり、今後の企業価値向上の本質であると考えております。

富士ユナイテッドホールディングス株式会社 | 2026年6月17日(水)  
416A 東証スタンダード市場

決算説明

中期経営計画（2026 - 2028年度）エグゼクティブサマリー

中期経営計画概要（2026年度 - 2028年度）



成長

グリーン領域への積極的な戦略投資



効率

持株会社体制による効率的なグループ経営



安定

持続可能な成長への投資と株主還元の見直し

財務目標および株主還元方針

領域別  
営業利益（28年度）

18.0 億円

ROE（28年度）

8.0 % 以上

配当性向

60 % 以上

\* 2026年度配当単価は、年間62円/株（2025年度実績と同単価）

領域別営業利益  
グリーン領域構成比  
（30年度）

60 % 以上

14

次に、財務目標と株主還元方針についてです。本中期経営計画では、「成長」「効率」「安定」を基本方針としております。「成長」については、グリーン領域への積極的な戦略投資を進めてまいります。「効率」については、持株会社体制による効率的なグループ一体経営を推進してまいります。「安定」については、高水準の株主還元を維持し、持続的な成長に向けた投資を実行しながら、株主還元と成長投資の両立を目指してまいります。財務目標としては、2028年度に営業利益18億円、ROE8%以上を目標としております。また、配当性向60%以上を維持し、株主の皆様への安定的な還元を継続してまいります。詳しくは、5月15日に開示しております中期経営計画資料をご参照ください。

免責事項



- 資料の内容につきましては細心の注意を払っておりますが、掲載された情報の誤りおよび情報に基づいて被ったいかなる損害についても、当社および情報提供者は一切責任を負いかねます。
- 当資料に記載されている当社の現在の計画等は、当社が現時点で入手可能な情報を基礎として作成した見通しであり、これらにより将来予測・業績予想には、リスクや不確定な要因を含んでおります。従って、当社として、その確実性を保証するものではありませんのでご了承ください。

© 2026 FUJITSU UNITED HOLDINGS Confidential – Please Do Not Share Without Permission.

以上で、私からのご説明を終了いたします。今後とも、富士ユナイテッドグループへのご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。ご清聴ありがとうございました。

#### 重要事項（ディスクレマー）

株式会社フィスコ（以下「フィスコ」という）は株価情報および指数情報の利用について東京証券取引所・大阪取引所・日本経済新聞社の承諾のもと提供しています。本レポートは、あくまで情報提供を目的としたものであり、投資その他の行為および行動を勧誘するものではありません。

本レポートはフィスコが信頼できると判断した情報をもとにフィスコが作成・表示したのですが、フィスコは本レポートの内容および当該情報の正確性、完全性、的確性、信頼性等について、いかなる保証をするものではありません。

本レポートは、対象となる企業の依頼に基づき、企業への電話取材等を通じて当該企業より情報提供を受け、企業から報酬を受け取って作成されています。本レポートに含まれる仮説や結論その他全ての内容はフィスコの分析によるものです。

本レポートに掲載されている発行体の有価証券、通貨、商品、有価証券その他の金融商品は、企業の活動内容、経済政策や世界情勢などの影響により、その価値を増大または減少することもあり、価値を失う場合があります。本レポートは将来のいかなる結果をお約束するものでもありません。お客様が本レポートおよび本レポートに記載の情報をいかなる目的で使用する場合においても、お客様の判断と責任において使用するものであり、使用の結果として、お客様になんらかの損害が発生した場合でも、フィスコは、理由のいかなを問わず、いかなる責任も負いません。

本レポートに記載された内容は、本レポート作成時点におけるものであり、予告なく変更される場合があります。フィスコは本レポートを更新する義務を負いません。

本文およびデータ等の著作権を含む知的所有権はフィスコに帰属し、フィスコに無断で本レポートおよびその複製物を修正・加工、複製、送信、配布等することは堅く禁じられています。

フィスコおよび関連会社ならびにそれらの取締役、役員、従業員は、本レポートに掲載されている金融商品または発行体の証券について、売買等の取引、保有を行っているまたは行う場合があります。

以上の点をご了承の上、ご利用ください。

#### ■お問い合わせ■

〒107-0062 東京都港区南青山 5-13-3

株式会社フィスコ

電話：03-5774-2443（IR コンサルティング事業本部）

メールアドレス：support@fisco.co.jp